

梅調味廃液を利用したバイオガス発電プラント

中田食品株式会社(代表取締役 中田 吉昭:本社 和歌山県田辺市下三栖 1475)は、平成31年1月をめぐりに、調味梅干し製造の際に発生する調味廃液を処理する嫌気性処理設備を建設、その運転の際に発生するバイオガス(メタンガス)を利用した「中田食品バイオガス発電所」を建設することになりましたのでお知らせします。

調味梅干の加工に使われる調味液の特性を生かし、従来の活性汚泥方式とは異なる嫌気性発酵プラントを使用し、発生したメタンガスを再生可能エネルギーとして利用することで、従来より低コストな廃棄物処理を目指します。

中田食品が嫌気性処理バイオガス発電プラントを建設、宮惣ケミカル株式会社(代表取締役 宮本 博行:本社 和歌山県田辺市東陽 41 番 51 号)に管理・運営を委託します。

中田食品の調味廃液に加え、地域の調味廃液も受け入れることにより、環境負荷低減への貢献、地域特産品の梅に由来する新エネルギーの創出を通じて、梅産業のさらなる発展と、国が推進する食品リサイクルへの取り組みとして地域のアピールに努めていきたいと考えています。

<バイオガス発電プラント概要>

| | |
|---------------------|-------------------------------|
| 設備名称 | 中田食品バイオガス発電所 |
| 所在地 | 和歌山県西牟婁郡上富田町生馬 674 番 2 |
| 運営主体 | 宮惣ケミカル株式会社 |
| プラント製造 | 住友重機械エンバイロメント株式会社 |
| 設備能力 | 梅調味廃液処理量 日量 20 m ³ |
| 発電機出力 | 360KW |
| 年間発電量 | 200 万kWh (一般家庭 400 世帯相当) |
| CO ² 削減量 | 1000トン/年 |



設備運転に伴う公害防止協定書への調印式の模様